

郷土種子を活用した緑化及び環境保全の取組み

中日本高速道路株式会社（以下「NEXCO 中日本」という）は、「環境・持続可能社会への貢献」として、環境に配慮した取組みを実施しています。

当社は、2009年からの6年間、高速道路の建設事業で培われた『地域性苗木』育成の技術を活かし、名古屋市近郊で『郷土種子を活用した緑化及び環境保全』を目的に行う植樹活動に協働してきました。

この活動は、今年度をもって終了しますが、これまでに高速道路以外の名古屋市近郊に合計2000本の苗木を植樹することができました。

今後は、名古屋市近郊に植樹した苗木の成長を見守っていくと共に、この活動で得た経験を生かし、今後も高速道路以外の地域にも、地域環境の保全活動に積極的に取り組んでまいります。

■取組みの背景

2009年に環境省中部環境パートナーシップオフィスと、名古屋市、地元NPO、有識者、NEXCO 中日本により、『郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生物多様性推進協議会』を発足しました。本協議会は、近年の名古屋市近郊における緑の減少を受け、「地域の樹木を育成し、地域の緑化に活かす」ことを目的に結成されました。

■NEXCO 中日本の役割

当社の関連会社である株式会社高速道路総合技術研究所緑化技術センター（以下「緑化技術センター」という）では、樹木の種子をより多く発芽させるための水分や温度の管理など、長年の高速道路建設事業で培った『地域性苗木』の育成技術を活かし、協議会の皆さんが名古屋市近郊の里山からの採取した樹木の種子を、緑化技術センターで苗木になるまで育成しました。

その結果、自然環境下では発芽率が非常に低い種子を、緑化技術センターの技術を用いて約40～60%の発芽率を確保し、育った苗木を再び名古屋市近郊の緑地へ植樹することができました。

■主な活動内容

	主な協議会の活動	備考	
2009年度	「郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生物多様性推進協議会」結成		
	名古屋市近郊の里山で種子を採取 植樹場所の調査・検討	緑化技術センターで苗木育成	
2010年度	名古屋市近郊の里山で苗の掘り取り 植樹場所の整備	緑化技術センターで苗木育成	
	2011年度	名古屋市近郊の里山で苗の掘り取り 植樹場所の整備	緑化技術センターで苗木育成
2012年度	初めての地域制苗木の植樹 植栽した苗木の調査 植樹本数 約700本達成		
	2013年度	植樹本数 約1500本達成 植栽した苗木の調査	
	2014年度	植樹本数2000本達成 地域性苗木PRイベントで市民の方々に苗木を配付 植樹した苗木のモニタリング、緑地整備作業 冊子（『The Green Book』～小さな種が教えてくれた～）を作成。	

- ・ 『量と質が両立する緑化』を方針に、名古屋市近郊の樹木から種子を採取し、苗木になるまで育成した『地域性苗木』による植樹活動を実施しました。
- ・ 協議会の各団体と協働により、高速道路の建設事業で培われた地域性苗木の技術を、高速道路以外の場所で初めて導入、地域住民の方々の協力を得ながら、名古屋市近郊に6年間で計2000本の苗木を植樹しました。
- ・ この活動を通じ、『遺伝子レベルでの地域環境保全』、『緑化の質も大切であること』などを、協議会をはじめとする参加者の方々に理解していただくことができました。

■活動の流れ

【1. 種取り】

協議会と市民ボランティアで実施



名古屋市近郊の緑地で種子を採取

【2. 地域性苗木の育成】

緑化技術センターで実施



採取した種子を緑化技術センターで苗木に育成

【3. 植樹の様子】

協議会と市民ボランティアで実施



育った地域制苗木を名古屋市近郊に植樹